

うわばき



うわばきクックと手ぶくろテンテ

● 1 ページ

スタスタ、キュッキュ、テークテク。
スタスタ、キュッキュ、テークテク。
今日もクックは歩いていきます。

さて、ここでクイズだよ。

今、かげになっているクックって、
何だと思う？

- ① バナナ
- ② マイク
- ③ うわばき

わかるかな？ 形を見て答えてね。

正かいは、うわばき。

クックは左足用のうわばきなんだ。
まあ、物語のタイトルが「うわばき
クック」だもん、わかったよね？

クックは、はなればなれになってし
まった、ふたごのお兄ちゃんうわばき
をさがして、旅をしているところなん
だ。

● 2 ページ

ビュ〜ビュ〜ビュ〜。

北風ビュ〜ビュ〜強い風。

とばされちゃうよ。あぶないよ。

クックが必死にふんばっていると、

何やら声が聞こえてきます。

「だれか助けてえええ!!!」

クックがあわててふり返ると、

「うわああああ!!!」

風に乗ってやってきたのは、右手の

手ぶくろ、テンテ。

ゴツーンとクックとぶつかった。

「イタタタタタ……。」

「だいたいどうぶ？ ごめんね、オイラ

のせいで……。」

「あ〜ビックリした……。ボクの名前

はクック。君は？」

「オイラはテンテ。」

「二つでひとつの手ぶくろなのに、君

はひとりぼっちなの？」

下を向き、ボンリとつぶやくテンテ。

「オイラ、兄ちゃんとはぐれちゃった

んだ。」

テンテは、公園で遊んでいる時に、

持ち主の子のポケットから落ちてし

まったのです。

悲しい顔のテンテに、クックもしよ

んぼり。

「ボクといつしよか……。」

「え〜？」

「ボクも、お兄ちゃんとはぐれちゃっ
たんだ。さがして旅をしているんだけ
ど、どこににいるか、わからなくて
……。」

「そうなんだ。オイラの兄ちゃんは、

たぶん家にいるはずなんだけど……。」

テンテは、あることをひらめきます。

「ねえ、家にもどるの手つだつてくれ

ない？」

「ボクが？」

「このままだと、兄ちゃんもすてられ

ちゃう。おねがい！ いつしよに兄

ちゃんがいる家までつき合ってよ！」

「え〜？」

「さようなら。」

と、クックはスタスタ。

「ちよつと待って待って！ おねがい

だよ、ねえ。」

「え〜、そんなこと言われても〜。」

「どうして？ 君も兄ちゃんとはなれ

ばなれになったのなら、手つだつてく

れたっていいでしょ。」

「いやあ、でもお。」

「いつしよに行こうって言ってよ、

クック。」

クックは、しかたなくこう答えまし
た。

「……(とても小さな声で) いつしよに

行こう。」

「え？ 聞こえない。」

「……(小さな声で) いつしよに行こ

う。」

「(なかばやくそで) いつしよに行

こう！」

こうして、クックとテンテの、左手

君に会いに行く、小さなぼうけんが始

まりました。

● 4 ページ

クックとテンテは、持ち主の男子
の家にやってきました。

だけど、クックは、ドアの前でブル

ブル、ブルブル。

なんと、大きな犬がねているので

「ボク、動物が苦手なんだ。だつて、

動物ってボクたちくつが大きいんだ

よ。よく仲間たちが犬やカラスにつれ

ていかれてたもん……。」

あらあらあら。今にもなき出しそ

うな弱虫クック。

すると……。

「オイラについてきて。」

テンテはゆう気をふりしぼり、クッ
クをつれて、そーっと歩き出しました。

さあ、ここでクイズ！

この後、とつぜん大きな音がして、クックとテンテは大変なことに。

一体何の音だと思っ？

- ① パトカーのサイレン
- ② ゴロゴロとかみなり
- ③ クックのくしゃみ

さあ、答えは……。

「ハーックション!!!」

正かいは、③のクックのくしゃみ！大きな音で目をさました犬は、クックに気づいて、うれしそうに走ってきます。

「うわぁ、どうしよう、つれ去られる。」

するとその時、キャン！キャン！キャン！

急に犬がほえ始めました。

● 5 ページ

テンテが犬の目をかくしたのです。

「テンテ君！ すごいー！」

目かくしされて、犬はその場をぐるぐるぐるぐる。

そのすきにクックとテンテはドアにとつ着。

「ここまで来ればだいじょうぶだね。」

「かつこよかったよ、テンテ君。」

「こわかったけど、かた方だけの手ぶくろだつてがんばればできるんだね！」

「おお、いいこと言っなあ。」

クックが感心していると、家の中から声が聞こえてきます。

「これいじょう、さがしてもむだよ。もう、なくなった手ぶくろはあきらめなさい。」

クックとテンテがまどからのぞくとお母さんが男の子に言いました。

「今度、新しい手ぶくろ買ってあげるから。」

● 6 ページ

しよんぼり下を向くクック。

「ボクたちがいなくなつても、すぐに新しい物を買つてもらえるから……。」

もう、さがしてもらえないんだね。」

だけど、テンテはへこたれません。

「兄ちゃんは、きつとオイラを待つてくれる！ だから会いに行かなきゃ！」

すると、庭のそうじをしていたおばあちゃんが、何やらこつちにやつてきます。

「大変だあ！ かくれよう！」

さあてクイズ！

テンテとクックは、おばあちゃんに見つからないようにどこにかくれると思っ？

- ① 植木ばちのうら
- ② 犬小屋の中
- ③ 大きな木の下

正かいは、植木ばちのうら。ここが一番近くて安全そうだもんね。

クックとテンテが、植木ばちのうらでおばあちゃんがいなくなるのを待っている。

「びびや〜！ このお花いいにお〜い！」

いいにおいに目がないクック。こつになると、手がつけれません。

「ダメだよ、見つかつちゃうよ。」

注意されても、クククククククン。

テンテがクックを引っばると、かれらはバランスをくずして、すつてんころりん。

「イテテテ……。」

「ごめんごめん。」

その時です。

「なんだい、これは？」

おばあちゃんに見つかつてしまいました。

● 7 ページ

そして、クックとテンテをヒョイツまんて、そのまま「ゴミ箱にポーイツ。」

「ああああああ……。」

● 8 ページ

まつくらな「ゴミ箱の中で、しよんぼり顔のテンテに、クックが言いました。

「ごめんね、ボクのせいだ……。おこつてる？」

「ううん。家までついてきてくれてありがとつ。……うわばきも、手ぶくろも、二つでひとつ。やつぱりひとつじゃ何も……。」

今まで、どんなことがあつても、なかなかつたテンテ。その目になみだがあふれます。

大声を上げて、なき出しそうとしたその時、

「わああああああん！ ヤダ、ヤダ、ヤダア!!!」

なき出したのはテンテではなく、クックでした。

「はぐれたら一生会えないなんて、そんなのヤダ！ お兄ちゃんに会えないなんてヤダヤダア!!!」

ワンワンなくクックの中は、なみだでいっぱい。

テンテは言いました。

「あのさあ……、くつは前に向かって歩くためにあるのに、君はなんて後ろ向きなんだ！ 一生会えないなんて言っつてないよ。オイラだってヤダ、兄ちゃんに会いたい!!!」

そして、テンテは力をこめて、重たいゴミ箱のふたを持ち上げます。

「あ、ボクも！」

クックとテンテは、力を合わせて、

えい！ えい！ えい！

ギギギ、ギギギ。

がんばれ、がんばれ！ もう一息！

ギギギ、ギギギ。

重いふたがゆっくりと開き、見事二人はだっ出せいこう！

「さあ、行こう！」

クックとテンテが歩き出そうとする
と……あれあれ？ 顔がみるみる青ざめていきます。

ワン！ ワン！

なんと、今度こそクックをつかまえようと、犬がよだれをたらして待っていたのです。

さらに、犬のほえる声を聞きつけて近づいてくるおばあちゃん。

「……これじゃあ、もつにげられないよ。」

へなへなと力をなくし、あきらめるテンテ。

「……もうだめか。」

なきそうな声でつぶやいたその時です。

クックが、二階に男の子がいるのを見つけて、立ち上がりました。

「ボクが何とかする！」

いきなり前向きになったクックに、

テンテも目をまん丸くしてビックリ！

「テンテ君！ いい事を教えてあげる。」

……かた方のうわばきだつて、がんばれば何かできるんだよ！」

「いやそれ、さっきオイラが言ったやつ……。」

だけど、クックはおかまいなし。

「よあし！」

とさけぶと走り出しました。

● 9 ページ

「ホップ！」

ステップ！」

クーツク!!!」

二階に向かって大きくジャンプ！

クックはまだにへばりつき、コツコツとたたきます。

「ねえ、気づいてよ！ 君の手ぶくろが帰ってきたよ！ ねえつてば！」

すると……。

● 10 ページ

こうして、クックのちょっとした活

やくにより、テンテは持ち主の男の子

の元にもどることができたのです。

「よかった。ずっとさがしてたんだよ。」

テンテとお兄ちゃん手ぶくろはだき

あつてよろこびました。まるで手をつ

ないでいるみたい。

テンテも、お兄ちゃんも、男の子も、

みんなニコニコ。

「そうだ、兄ちゃん！ オイラを助けてくれた友だちをしようかいするね！」

キョロキョロ当たりを見回すテンテ。

だけど、クックのすがたは見当たりません。

「あれ??？」

● 11 ページ

「ハックション！」

つめたい風にふかれながら、クック

はふたたびひとりぼっち。

「あーあ……ボクもお兄ちゃんに会いたいなあ。」

今日もクックは歩いていきます。

スタスタ、キュッキュ、テークテク。

スタスタ、キュッキュ、テークテク。

スタスタ、キュッキュ、テークテク。

つづく

